

白門特派員通信

中央大学学徒出陣の特攻隊員が残してくれたものを 未来に引き継ぐ会 報告

令和5(2023)年10月14日(土)、白門近畿ブロックが中央大学卒業生であり特攻隊員として散華された大岩虎吉氏を慰霊し、鵜野飛行場のことや大岩さんのことを知る見学会を開催。また、「特攻と中央」のテーマで研究をしている国際情報学部（注）の松野良一教授とゼミの学生による研究発表も行われた。イベントには大村理事長と近畿各地から60人余の学員・父母会の方々のご出席をいただいた。白門特派員・西村輝雄（兵庫白門会）

大岩虎吉氏について

姫路海軍航空隊が昭和18年に開設した鵜野飛行場（加西市鵜野町）は兵庫県の播磨地区の中央部にある。今でこそ中国自動車道で大阪から車で1時間半だが、開通する40年前までは極めて不便なところだった。

この鵜野飛行場から大岩虎吉さんが司法試験に合格され、学生結婚で子どもさんもおられるにも関わらず、神風特別攻撃隊「白鷺隊」の教官をされ、自らも特攻隊員として飛び立っていかれた。

イベント開催に至る経緯

大岩虎吉少尉が主人公の物語『きみが残してくれたもの—鵜野飛行場物語』（河畑ふみ著）が出版され、一昨年10月、兵庫白門会役員で加西市在住の吉田稔（昭52卒）さんから「こんな先輩がおられたとは全く知らなかった」と本が送られて来た。「大岩虎吉先輩のことを中央大学に共有してもらいたいと思う。中央大学の卒業生名簿（百周年記念の卒業生名簿）では物故者の欄におかれているだけでは良くない。何とかしたいが中央大学のどこにお願いすればこんな先輩がおられたということを大学と学員で共有できるだろうか」とのことだった。

兵庫白門会の走出会長、大阪白門会の松村会長から学員会本部に働きかけをしていただき、阪神タイガース・森下選手の激励会の折に久野会長に読んでいただくようお願いをしたところ、「大岩虎吉学員の生き様こそ中大の原点と存じます」とお便りいただいた。その結果今回の「未来に引き継ぐ会」開催に至った。

第一部 慰霊式と見学会

午前10時30分、鵜野平和祈念の碑苑にて大村理事長の代表献花と全員の黙祷で慰霊を行った。その後2グループに分かれ、令和4（2022）年4月にオープンした鵜野飛行場跡に建つ、戦争の歴史を伝えるミュージアム「sora かさい」にて戦闘機「紫電改」と、パイロット養成に使用され、特攻機としても使われた「九七式艦上攻撃機」の実物大模型の展示や貴重な写真や図面、実物資料を解説とともに見学。また鵜野飛行場周辺に残る滑走路跡や防空壕跡といった戦争遺跡群を、上谷資料館副館長やボランティアガイドによる詳しい解説を聞きながらバスで巡った。



大村理事長による代表献花



紫電改と九七式艦上攻撃機

第二部 研究発表と著者講演

加西市民会館に移動し、昼食の後、午後1時30分より研究発表と講演の第二部がスタート。研究発表に先立ち、大村理事長から「私はこの加西市の隣の加東市の生まれ育ちですが、鵜野飛行場のことは全く知りませんでした。資料館を見て特攻隊員がどういう思いで生きて、どういう思いで行かれたのかを知るよすがにしたいと思います。近畿ブロックの方々にこのような機会を設定して下さいましたことにお礼を申し上げます。河畑さんの本を読ませていただいて、戦争に対する大上段な見方でなく肝心な部分は家族への愛情、家族愛であると感じました。今、世界は戦争の真っ只中。人種、宗教、国家的利害を乗り越えて人間が超越した高いレベルで戦いを防ぐことができないのかなと思っています。松野教授の指導されている学生諸君の発表があるのですが、興味深いものがあり若い世代に期待しています」と挨拶があった。

松野教授からは、このゼミは学部を横断して全学部から募集し、厳しい選抜試験を経てモチベーションも高いゼミであること、平成18（2006）年からゼミ生が戦争を体験された先輩を訪ねてインタビューを行い、本を3冊刊行していることなどの説明があった。

「中央と特攻」の研究は、中央大学では何人の先輩が特攻で亡くなられたのか分からないので調査をしようということから2019年頃に始まったもので、学員会の協力をいただいていた調査の結果、70人くらいの方が亡くなられたということが分かったという。これを受けて、今のうちに中央大学だけでも資料を整理して若い人に継いでいこうというのが本旨とのこと。

研究発表は佐藤ちひろさん（総政3）が全体概要を、伊藤光雪さん（国情4）がドキュメンタリーをまとめられた。



ゼミの研究発表を行った 佐藤ちひろさん（右）、伊藤光雪さん（左）



プロジェクト名「特攻と中央大学—記憶を後世に—」概要

■目的

- ①「特攻と中央大学」の全容を明らかにすること
- ②遺影や遺書などの所在、保存場所・方法を明らかにすること
- ③学徒の物語を掘り起こし、つないでいくこと

大岩少尉については令和5（2023）年4月以降3度、鵜野資料館や大岩少尉が家を借りていた塩河さん宅まで調査に訪ねた。

ドキュメンタリー「南西諸島の空から—ある特攻隊員の日記—」

特攻隊員であった富澤健児少尉の近親者を訪ねた訪問記録を中心に、昭和16（1941）年1月1日からの12冊の日記をもとに詳細にフォローされていた。よくここまで……と驚くばかり、皆さんも感動されていた。ドキュメンタリーの動画が40分でまとめられている。是非、学員の皆さんには観ていただきたいと思う。



休憩をはさみ、『君が残してくれたもの—鵜野飛行場物語—』の著者である河畑ふみさんの講演が行われた。司法試験に合格し、将来を期待された大岩虎吉氏が特攻隊に志願された状況など、本を書くに至った経緯などについて語られ、最後に「今日ここにこうして中央大学OBの方々、先生方、学生の方々、父母の方々が集まり大岩虎吉さんについて語り合う機会に恵まれたということは生前の大岩虎吉さんと同じようにあるいはそれ以上の使命感が中央大学スピリットとして皆さん方に受け継がれてきた証であると思います。大岩さんをはじめ、戦争で亡くなられた方々の軌跡を追い、思いを語り継いでいくことが戦争の犠牲者を慰霊し、過去の歴史をふり返り深い反省のもとに事実を後世に語り伝えていくことが真の平和に繋がっていくのではないかと思います」と話された。



著者の河畑ふみさん



『君が残してくれたもの—鵜野飛行場物語—』

閉会のあいさつは地元加西市で税理士として活躍され、今回の企画の旗振りをしてきた吉田稔さんが大勢のご出席、父母会の方々のご出席をいただいたことへのお礼を述べ、締めくくられた。